

## 刊行にあたって

監修 須田 立雄

(日本学士院会員、昭和大学名誉教授、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター客員教授)

本書は、歯科医療製品の提供を通じて、日本歯学界の発展に永年貢献されてきた株式会社ジーシーの創業90周年と、『GC友の会』設立55周年を期に出版された記念刊行物である。包み隠さず申し上げれば、本書の監修という重責の依頼をいただいた時、私は少々戸惑いを覚えた。なぜなら、私自身は江戸時代末期から続く歯科医の家系に生まれながら基礎医学研究の道を志し、骨の研究に50年間携わってきた一研究者であり、歯科医療の現場に身を置く人間ではないからである。しかし、発刊に込められた想いをあらためてお聞きし、最大限の協力をさせていただこうと決意した。歯科医師と患者さんのより良い関係と、歯科界の未来を真摯に考える(株)ジーシーの姿勢に共感を覚えたのだ。私たちは「医学・歯学、そしてライフサイエンスの知見を凝縮した書籍をつくろう」という点で意見の一致を見た。

戦後、多くの歯科医師が懸命に治療に努めてきた結果、国民の口腔衛生は小児を中心に劇的に改善された。一方、“診るべき患者”が減る中で歯科医師の数は増え続け、その競争の激化は歯科界に大きな混乱をもたらしている。未来を拓くためには、今こそ発想の転換が必要である。歯科医師は歯だけを治療の対象とするのではなく、口腔を「消化器官の入り口」と捉え、今後、患者の全身疾患の予防に寄与していくべきだ。医療人としての深い知識を活かし、地域で患者のQOL向上にこれまで以上に関わることで、歯科医師の社会的地位は自ずと高まっていくであろう。かくして、歯学領域にとどまらず、我が国が誇る最高の知識人のメッセージを幅広く「遺言」という形で次世代に伝える本書のコンセプトが定まったのである。

私は監修者として、ご登場いただく先生方の人選に協力させていただいた。内訳は医学・ライフサイエンス領域から7名、歯学領域から3名である。三部構成の第一部では多くの著作をお持ちで一般の方々にもお名前が知られている日野原重明先生、鎌田實先生、村上和雄先生から示唆に富む金言の数々を頂戴した。第二部では専門領域で燦然と輝く功績を挙げ、医学の発展に大きな貢献をされた石坂公成先生、杉村隆先生、金澤一郎先生、松澤佑次先生の半生にスポットを当てている。偉大な先生方の信念を貫く生き方は、医療人として道を究める上で大きなヒントになるだろう。第三部では歯科医学の領域から石川烈先生、小宮山彌太郎先生、そして私、須田立雄が各々の立場で歯科界への提言を述べ、後に続く世代にエールを送っている。

本書が歯科界からあたたかく受け入れられるとするならば、本書への登場を快諾してくださり、素晴らしいメッセージをいただいた10人の先生方のお陰である。ここから御礼を申し上げる。また、本書の刊行を企画された(株)ジーシーの中尾眞社長、GC友の会 富澤実所長、デンタルダイヤモンド社の牧野英敏氏、池田康一氏、池澤康之氏に深甚なる感謝を捧げたい。企画・構成と10人の先生方のインタビュー記事作成を担当した枝園和之氏、写真撮影を担当した望月孝氏、本書の装丁とデザイン全般を担当した高倉新氏にもここから御礼を申し上げる。これらのどなたが欠けても本書は陽の目を見なかったと思う。本書が歯科関係者や患者さんに末永く愛読されることをここから念じている。